

2号機 原子炉建屋オペレーティングフロアの ガンマカメラによる調査結果について

2013年2月22日
東京電力株式会社



東京電力

調査概要

■目的

2号機5階のオペレーティングフロア（以下、オペフロ）については、今後の燃料取り出し準備等を行う上で雰囲気線量の低減が不可欠である。そのため除染・遮へいを実施する計画であるが、有効かつ効率的な作業計画に資するため、ガンマ（ γ ）カメラを用い、原子炉ウェル上部を中心に表面の放射能の相対的な強さ、分布状態を確認した。

■実施内容

2号機原子炉建屋東側に構台を設置し、オペフロに開口しているブローアウトパネル開口部から γ カメラ（JAEA開発の γ -eye）を用い対象面から放出される放射線を計測した。

今後、調査結果を解析し、撮影対象面の放射能分布を確認する。

■現場体制

当社社員：7人 協力企業：13人

■作業時間

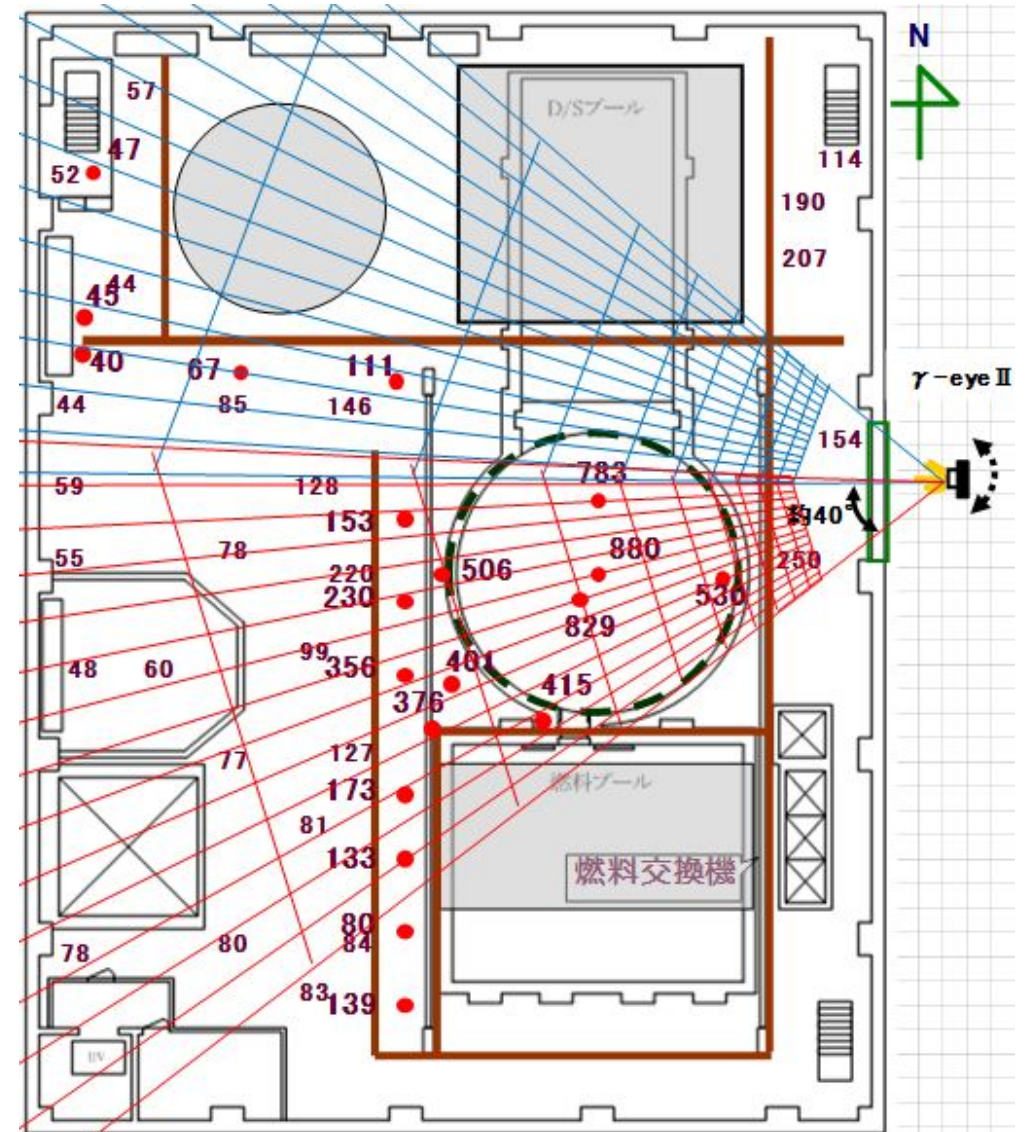
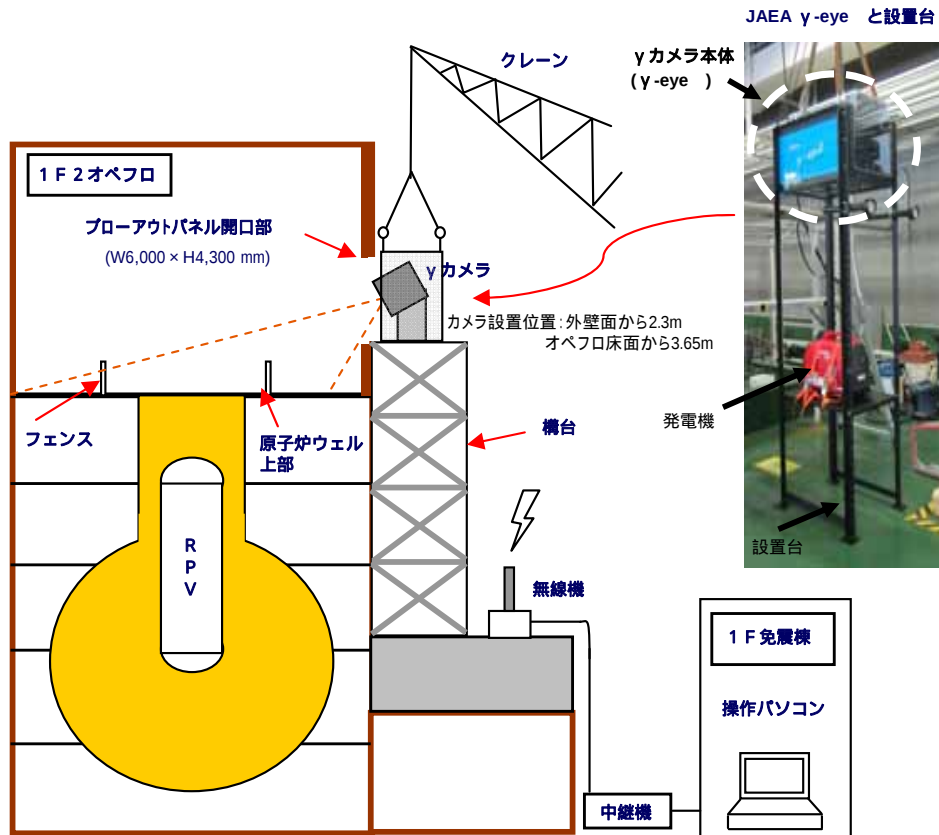
H25年2月21日（木） 9：00～ 16：55

■最大被ばく線量

0.75 mSv / 人（計画線量 4 mSv）

調査イメージ

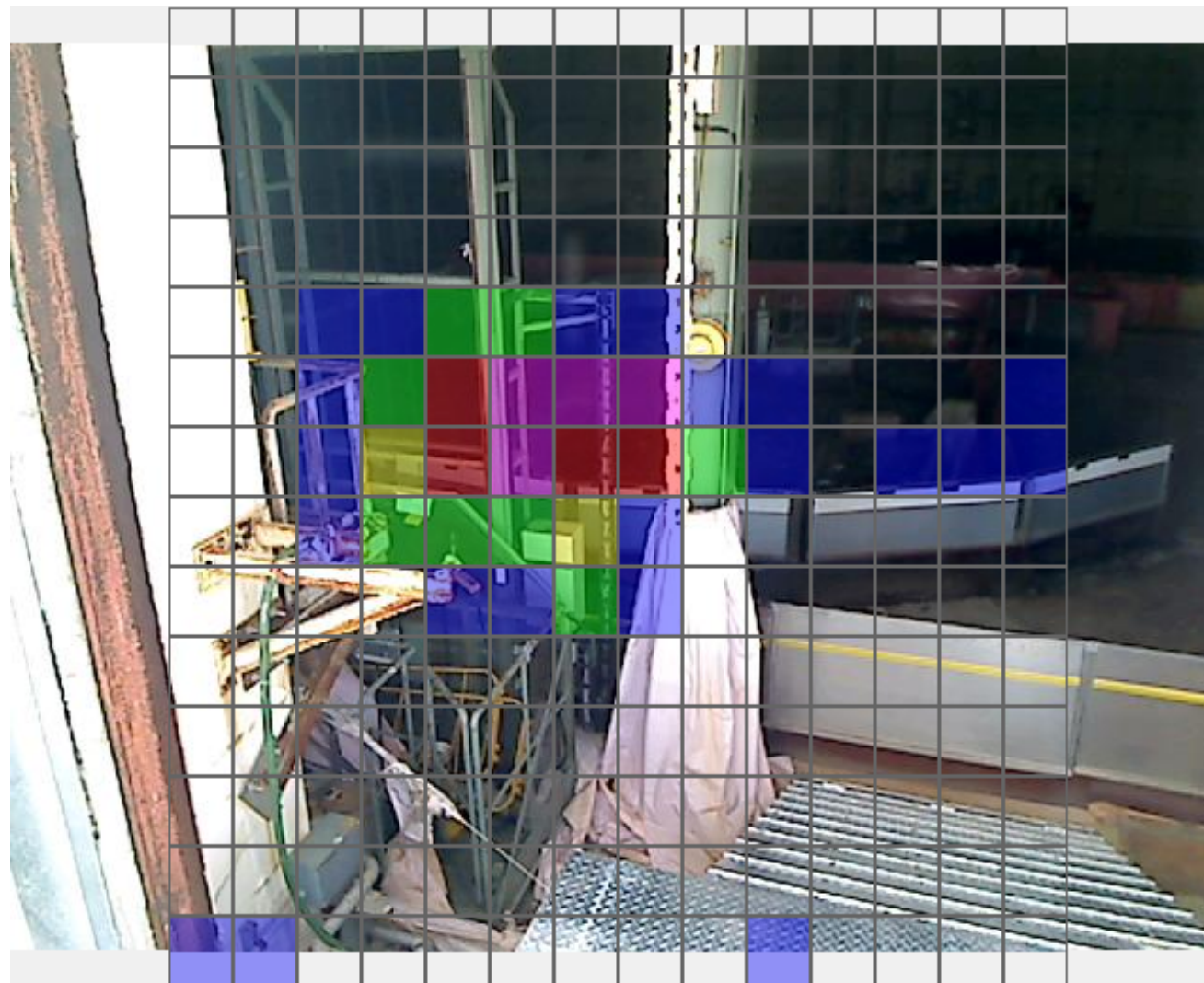
2号機オペレーティングフロア



— はフェンス

数字は6月13日までに測定した線量率(単位mSv/h)
図はイメージであり、実際には水平に3分割し撮影した。

調査結果（速報ベース）



ガンマカメラ設置位置での線量率

今後、2号機オペレーティングフロア調査結果を解析し、撮影対象面の放射能分布を確認する。
解析には1ヶ月程度をかける見込み。